



第2部門 『地域の教育力の向上と子ほめ運動の現状』

(平成 17 年 5 月発行)

A 5 202 ページ

本書は、『子ほめ条例のまちは変わるのかー地域で子どもをほめて育てようー』というタイトルで研究代表者がこれまでの実践の中から子どもを育ててきた実践記録が収められている。

ほめられて育つ子どもの可能性を追求している。

福留強 (聖徳大学人文学部児童学科教授)

目次

第1章 地域で子どもが育ってこそその「生涯学習社会」

第2章 子どもが、家庭・学校・地域で、ほめられることがなかったならば…

ほめて育てられ、メダリストに

「ほめる」をとりあげたテレビ、「発掘！あるある大事典」

人の心の「野心のベクトル」と「理想のベクトル」

ほめることは大切だと、『アエラ』も

第3章 プロセスでほめるとよいのは、なぜ

第4章 ヘタな叱り方、上手なほめ方、ほめられ方

「叱る」とは、辛抱強く言って聞かせること

上手なほめ方、ほめられ方

ほめることを忘れた社会に、何一つやる気のないニートが増える

第5章 地域のおとなみんなで、子どもをほめるまち

頭がよいだけではなく、尊敬され、役立つ人間に

学歴偏重が勉強嫌いを、学ぶことへの喜びが、生涯学習社会を

「子ほめ条例」は、どんなふう to 実施されているか

ほめるおとなの意識と理解が大切

「子ほめ条例」以外にも、同じ主旨のこんな試みが

「子ほめ条例」が、子どもを明るくしている

第6章 どうなる、市町村合併後の「子ほめ条例」

10万都市レベルで実施か、小規模集団で数多くか

どの子を、どの賞に、だれが推薦し、いつ、どのように表彰するか

ボランティアからなる市民組織が、「子ほめ」運動を担うという道もある

「子ほめ条例」の主旨を活かして、柔軟に発展させよう